

「驚異の工夫で即戦力に！バーチャル咬合器を使いこなす三つの要点」

高瀬 直

近年、デジタルデンティストリーが主流化し、IOS(Intraoral Scanner)の普及拡大に伴うモデルレス技工の需要も増加している。モデルレス技工では CAD(Computer-Aided Design)による完全な補綴設計が必須であり、バーチャル咬合器の活用が不可欠である。しかし、バーチャル咬合器は通常的使用方法では特有の動作を起こし、期待通りの運動再現が難しい。したがって、臨床の現場で十分に活用されていないと思われる。また IOS によるフルデジタルな手法は、中心咬合位においてもバイトエラーが多く発生する。そこで本講演ではバーチャル咬合器の効果的な活用方法を主題とし、咬合の基礎および IOS におけるバイトエラーの原因と対策について詳説したい。バーチャル咬合器の有効活用はアナログ作業のさらなる低減を意味し、ラボ全体のデジタル化による恩恵が強く表れ、歯科技工士の長時間労働という問題から脱却の一途を辿りつつある。当講演では、作業時間を短縮した自身の経験を踏まえ、こうしたデジタル化の利点についてもお伝えしたい。

「デジタルデンティストリー ～地域医療におけるデジタル技術の活用～」

堀部國雄

近年のデジタル技術の進歩はめざましく、歯科分野においてもデジタルスキャニングや 3D プリント技術など新しいツールが次々と開発されています。

一方でどのような機械が必要で、どのように活用していくのかイメージしづらい方々もいらっしゃるのではないかと思います。

今回は地域医療における弊社のデジタル技術の活用についてご紹介いたします。